



「農×地域シンポジウム2025」が本学で開催されました

このたび、2月15日(土)に本学(南丹市日吉町)で「農×地域シンポジウム2025」が開催されました。

本イベントは、特定非営利活動法人つむぎと農×地域シンポジウム2025が共催となり、本学で実施いただきました。

当日は午前からドキュメンタリー映画「百姓の百の声」の上映や、マルシェでの展示なども行われ、本学からも令和9年4月に開設予定である農学部への広報ブースを設置し、来場の皆様との情報交換を行いました。

午後には南丹市の山内守副市長をはじめ、地元でご活躍の各企業・団体の代表者、そして、本学からは新学部設置準備室長の秋津元輝京都大学教授がパネラーとしてディスカッションを行うなど、南丹地域における今後の農業の在り方を検討するきっかけとなる良い機会となりました。地元の農業関係者の皆様など、約250名の来場で会場は賑わいました。



本学初! 公安系公務員合同説明会を開催

2025年1月25日(土)、本学にて初めて「公安系公務員合同説明会」を開催しました。

今回は、「大津市消防局」「海上保安庁」「京都市消防局」「京都中部広域消防組合消防本部」「京都中部総合医療センター」「京都府警察」「自衛隊」の7施設にご参加いただき、事前申し込み制で、救急救命学科および看護学科の1~3年生43名が申込み、3時間で6クールという短い時間でしたが、参加学生にとって大変有意義な時間となりました。

終了後に実施したアンケートでは、学生からは、「質問がとてもしやすく、踏み込んだ話も聞くことができたため、とても参考になった。」「自分では見つけられなかった選択肢まで知ることができてとても良い機会になった。」など、就職先の選択肢が広がったというコメントが多数寄せられました。

参加施設からは、「参加された学生は礼儀正しく、終始熱心に話を聞いてくれた。」「非常に強い興味、関心を持っておられる方が多かったと感じる。」などのコメントをいただき、参加学生および参加施設様双方から高い満足度を得られました。



看護学部[看護学科] * 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] * 鍼灸学部[鍼灸学科]
大学院[鍼灸学研究所・保健医療学研究所]



財団法人日本高等
教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-1189 E-mail gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp

明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter

Vol.
28
2025



ご卒業、おめでとうございます!

去る3月11日(火)、卒業生188名、修了生13名が覚悟と誇りを胸に、新たな門出を迎えました。

当日は、勝見学長の卒業生に向けた温かい式辞に始まり、各学部の代表者が卒業証書・学位記を受け取った後、救急救命学科の池上 雅春さんが学生の代表としてこれまでの学校生活の思い出と感謝の気持ちを答辞で述べました。

人生は、日々勉強。それぞれのステージに進んでも、建学の精神にある「和」を大切に、これからも学び続けてほしいと思います。

成績優秀表彰者

●学長賞

鳥堂 隼輝 (鍼灸学科)
溝淵 通葉 (柔道整復学科)
池上 雅春 (救急救命学科)
江戸 唯華 (看護学科)
吉留 ひなの (鍼灸学科)
嶋田 光紗 (柔道整復学科)
松浦 ゆうき (看護学科)
橋本 歩久玄 (鍼灸学科)
赤塚 真帆 (柔道整復学科)
松木 聖直 (救急救命学科)
藤田 通大 (看護学科)

●特別功労賞

●教育振興会会長賞

●全日本鍼灸学会 会長表彰
●鍼灸学系大学協議会 優秀賞
●日本鍼灸師会表彰
●全日本鍼灸マッサージ師会表彰
●日本柔道整復接骨医学会賞
●日本柔道整復師会表彰
●全国救急救命士教育施設協議会表彰
●日本私立看護系大学協会表彰
●京都府看護協会花束贈呈

金沢 杏吾 (鍼灸学科)
山田 珠央 (鍼灸学科)
橋本 歩久玄 (鍼灸学科)
吉留 ひなの (鍼灸学科)
木田 慧司 (柔道整復学科)
福徳 響 (柔道整復学科)
武藤 好美 (救急救命学科)
川口 歩夢 (看護学科)
鈴木 晴佳 (看護学科)

鍼灸学部 鍼灸学科

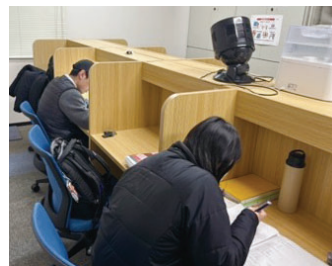
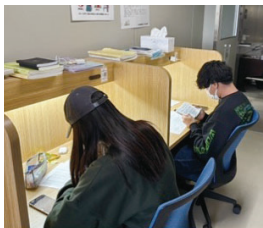
Faculty of Acupuncture and Moxibustion

はり師・きゅう師 国家試験合格への取り組み

鍼灸学部では他大学とは違い、3年次に「はり師・きゅう師 国家試験」を受験します。3年次で本国家試験を受験できるのは大学では本学だけです。

国試合格の取り組みとして、鍼灸学部では3年生の1年間に9回の模擬試験実施や国試対策授業、個別の勉強指導や面談、夏季および冬季講習、などを行なっております。鍼灸学部では学生の自学自習を特に重要視しており、そのための勉強場所を確保しています。

3年生には文武両道でスポーツと勉学の両立に励む学生も多いです。陸上部の古西亜海さんは令和6年度西日本インカレ(5,000mと10,000mの2種目)で優勝し、「部活と勉学の両立を目指してこの大学に入学したため、国試に合格し、4年生も部活でさらに活躍できるようにしたい。」との信念で頑張っています。柔道部の山本空さんは令和6年度全日本学生柔道体重別選手権大会にて準優勝を果たし、「今年は必ず国試に合格し、4年生では学生柔道日本一を目指します。」との強い意気込みを持っています。



保健医療学部 柔道整復学科

Faculty of Judo Seihuku Therapy

柔道整復学科の臨床実習では、スポーツ現場でサポートする実習を行っています。この実習では、地域のマラソン大会に参加された皆さんやスキー場で怪我をされた方たちに対して、学生が問診や診察をして、処置の方法までを考えています。今年はスキー場に携帯型のエコー検査機器を持ち込んでより詳細な病態把握を学修することができました。

この実習が、学校の授業内容を現場で活きる知恵とするきっかけになることでしょう。



保健医療学部 救急救命学科

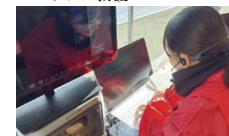
Faculty of Emergency Medical Science

春風を以て人に接し秋霜を以て自らを肅む

後期も様々な実習プログラムを展開中！
実践力を磨きます！

本学の救急救命学科の学生たちの学びの場は教室内に留まりません。多種多様な環境で実践力を身に着けます。2月にはKYOTO MARATHON2025とOSAKA MARATHON 2025に救護スタッフとして参加し、病院前救急医療の最前線を経験しました。また2年生の必修科目であるマウンテンレスキュー実習では、慣れない足場に悪戦苦闘しながらも、寒冷環境下での救助活動や安全確保のための知識・技術を得ました。様々な環境を知り、備えることが、即戦力となる救急救命士への第一歩です。

● マラソン救護



● マウンテンレスキュー実習



勝敗を越えて高みを目指す！部活動でも好成績！

● ライフ：全日本学生ライフセービング大会



● レスバ：西日本学生救急救命技術選手権



学業以外の活動においても、学生たちは素晴らしい成果を上げています。RESCUE PARAMEDIC部は、第16回西日本学生救急救命技術選手権にて総合優勝を果たし、3年連続の快挙となりました。ライフセービング部の学生たちは第39回全日本学生ライフセービング大会に出場し、多くの選手が決勝進出を果たすなど、好成績を収めました。しかし、勝敗や結果が全てではありません。大会に向けて苦悩した日々や、そこで培われた人間性こそが、将来、救急救命士としての力になります。

今後とも、成長を続ける本学科の学生たちを温かく見守り、応援いただけますと幸いです。

看護学部 看護学科

Faculty of Nursing Science

看護学科4年間の集大成！

看護師国家試験を受験する4年生に向けて！

2025年2月16日に看護師国家試験が行われました。この1か月前、受験する看護学部4年生の壮行会を行いました。壮行会では教員から受験に向けて緊張しないためのコツや心構えと、地元にある日本最古の天満宮「生見天満宮」へ合格祈禱の際に頂いた合格梅と、教員の熱いメッセージの入った「合格グッズ」を4年生の一人ひとりの顔を見ながら全員に渡しました。

その後、去年の春に4年生で決めたクラスのテーマ「国家試験全員合格100%！」と、全員で気合を入れました。4年間の学びの集大成の日に梅の花、桜の花が咲きはこることを祈って、試験当日に応援に行きました！

看護師国家の模擬試験では、国家試験に近づくにつれて全国平均を上回る成績結果を残しています。学生の皆さんの努力はこれからの糧となるに違いありません！！

看護学科 4年生 アドバイザー一同



大学院 鍼灸学研究科

Graduate School of Acupuncture and Moxibustion

今年度の学園祭(たには祭)では、鍼灸学研究科の有志で「手形アート」の企画が行われました。中心メンバーであった平岩さんに、企画の意図を含めてお話を聞いてみました。

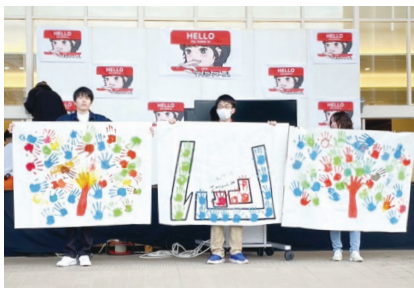
「私は現在、大学院生として緩和医療領域における鍼灸治療の有効性について研究を進めています。鍼灸学研究科には私以外にも多種多様な研究に取り組む院生たちが在籍していますが、学部や他学部とのつながりが少なく、大学院生の活動が広く知られることが少ないのが現状でした。

そこで、鍼灸治療や我々の研究をより多くの方に知ってもらうことを目的に、10月に行われた学園祭で「手形アート」を企画しました。この手形アートでは鍼灸師にとって重要な「手」を使い、「心」という文字を描くことで、鍼灸治療が患者さんの身体だけでなく心にも寄り添う医療であることを表現し、多くの方に鍼灸治療の魅力を知っていただく機会としました。

この手形アートには大学の学生や教職員の方々だけでなく、地域の方々にも協力していただきました。単に研究や鍼灸治療の魅力を広めるだけでなく、こうして大学と地域が一体となって作品を制作できたことは、非常に貴重な経験となりました。こうした活動を通じて、我々が大学内にとどまらず、地域とつながりながら何かをすることの意義を改めて実感しました。

今後も研究に励むとともに、より多くの方に鍼灸治療や私たちの研究を知ってもらう活動を続け、地域や社会に貢献ができる鍼灸師・研究者を目指していきたいと考えています。」

大変素晴らしい企画でした。今後のご活躍も楽しみにしております。



大学院 保健医療学研究科 柔道整復学専攻

Course of Judo Seifuku Therapy, Graduate School of Health Science and Medical Care

学位論文公開発表会(令和7年2月3日)

修士課程2年目の院生2人が学位論文を発表しました。1人目は古閑裕太さんで、「キネシオロジーテープ(KT)の貼付が大学陸上短距離選手の筋の発揮パワーとエネルギー代謝に与える影響」を発表しました。陸上短距離選手に対するKT貼付の運動パフォーマンス等への影響を検討した研究であり、今後のアスリートへのKT貼付の有用性を検討する研究に対して指標を示した意義ある発表でした。2人目は宗友宏行さんで、「軽度介護認定者の介護度抑制に対するインターバル速歩トレーニング(IWT)の効果について-日常生活の活動量との関連性-」を発表しました。健康や体力づくりに良い運動とされるIWTを軽度介護認定者に対して行う際の条件や環境に対する基礎データを示す発表であり、軽度介護認定者の介護度抑制に対するIWTの今後の有用性を示す貴重な発表でした。1つの研究を行うためには、膨大な知識と大変な労力が必要です。お二人とも2年間に亘り、大変苦労されたと思います。その過程で得られた知識とノウハウを更なる研究につなげてほしいと願っています。



大学院 保健医療学研究科 保健学専攻

Course of Health Science, Graduate School of Health Sciences and Medical Care

今年度初めて保健学専攻修士課程3名(看護師・鍼灸師、助産師、救命救急士)が大学院を修了します。そのうち1名は長期履修制度を活用し、臨床(看護師)での勤務と大学院での研究を両立しながら、3年をかけて修士論文(排泄ケア)を完成しました。修士論文は臨床で気づいたリサーチクエスチョンを研究し、その成果を臨床に還元し実装しようとする研究マインドに依拠しています。在校生並びに卒業生の皆様も、臨床での気づきを研究に発展してみませんか。是非大学院進学で新たな世界を見つけてください。お待ちしております。

大学院保健医療学研究科研究科長/保健学専攻長 桂 敏樹

TOPICS

Meiji University of Integrative Medicine



部活動のトピックス



女子サッカー部

5年連続7回目の全国インカレでベスト16 関西予選を突破し皇后杯に初出場 ピッチに歴史を刻む

2024年後期は、『第53回関西女子サッカー選手権大会兼皇后杯JFA第46回全日本女子サッカー選手権大会関西大会』を順当に勝ち上がり、決勝でリーグ戦でもライバルの大阪体育大学と対戦。延長戦の末に2-1で勝利し初優勝を飾りました。皇后杯は2回戦から登場。強豪のなでしこリーグ1部・日体大SMG横浜を相手に善戦するも0-2で敗れましたが、ピッチに歴史を刻みました。

関西学生女子サッカー連盟2024年秋季リーグ(1部)は春季に続き2位(5勝1敗1分)。5年連続7回目の出場となった『全日本大学女子サッカー選手権大会(第33回)』は1回戦で福岡大学に2-0で快勝し5大会連続で2回戦に進出。その2回戦で十文字学園女子大学と対戦し、終始押し気味に試合を進めるも決めきれず0-1で惜敗。またしても関東の壁を超えることは叶いませんでしたが、最後まで諦めない本学らしいサッカーで相手を苦しめるなど健闘が光りました。



女子柔道部

講道館杯で竹原選手が5位 全日本学生柔道体重別で山本選手が2位、川口選手が3位

前期の『全日本学生柔道優勝大会(5人制団体)』に続く団体戦での上位進出はなりませんでした。後期は個人戦で躍動。5選手が出場した『JOCジュニアオリンピックカップ2024年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会』の女子63kg級で山里椿華選手(救急救命学科1年)が準優勝に輝いたのを皮切りに、『全日本学生柔道体重別選手権大会(インカレ個人)』の女子52kg級で山本空選手(鍼灸学科3年)が準優勝、同78kg超級で川口鈴王選手(柔道整復学科3年)が3位とふたりがメダルを獲得。続く過去最多となる8選手が出場した柔道の日本一を決める『2024年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会』の女子57kg級でルーキーの竹原妃菜選手(柔道整復学科1年)が5位入賞を果たすなど活躍しました。

また、本学OGの足達実佳選手(大阪府警・2023年3月柔道整復学科卒業)が国際大会の『グランドスラム東京2024』の女子57kg級で金メダルを獲得。夢のロサンゼルス五輪出場に向け、大いなる一歩を記しました。引き続き応援よろしくお願いします。



竹原選手



山本・川口選手



陸上競技部

末吉選手が女子棒高跳でデフ世界記録を樹立
古西選手が富士山女子駅伝で快走

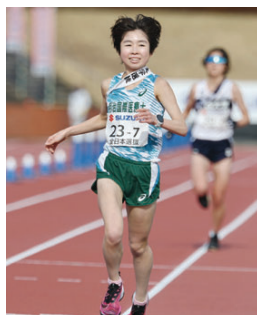
11月30日(土)から12月1日(日)までの2日間、東京の駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場などで行われた聴覚に障がいのあるアスリートが集う『第21回日本デフ陸上競技選手権大会』の女子棒高跳で末吉風選手(鍼灸学科2年)が3m60の自己ベストをマークし優勝。この記録はデフ世界記録および日本記録、大会記録という快挙でした。今回の活躍により、2025年の11月に同会場で行われる『2025東京デフリンピック』※の代表にも前進。今後のさらなる飛躍が期待されます。

2024年12月30日(月)に静岡県富士宮市と富士市の富士山麓コースを舞台に行われた『2024全日本大学女子選抜駅伝競走』(富士山女子駅伝・7区間43.4km・出場24チーム)の全日本大学選抜チームのアンカー(7区・8.3km)として古西亜海選手(鍼灸学科3年)が出演。上りが続く難しいコースを30分52秒の区間6位で走り抜き、ふたりをかわし14位でフィニッシュ。選抜チームの主将としての役割を果たすと共に、その力走が光りました。応援ありがとうございました。

※デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳がきこえない」という意味。デフリンピックは国際的な「きこえない、きこえにくい人のためのオリンピック」。2025年には東京で開催される。



末吉選手



古西選手



第45回たには祭を開催しました

学園祭のテーマは『あつまれ!進化・新生 たには祭』と称し、実行委員長の松尾くん(救急救命学科4年生)・副委員長の橋本くん(救急救命学科2年生)を中心に、実行委員たちが学科学年を超えて繋がり・絆を築くと共に、たには祭のイベントも学生のアイデアで進化を続けています。

10月25日(金)の前夜祭では、軽音部のライブが開催され、26日(土)のたには祭当日は、天候に恵まれ、晴天の中「殿田中学校吹奏楽部」による演奏から始まり、地元のジャズバンド「Nantan's」のライブ、地元の小中学生によるダンスや消防団のイベント並びに学生によるフリーライブショー、歌うカラオケ大会、大学院生による手形アート、救急救命学科のダンス・コントと盛りだくさんのイベントでスージを大いに盛り上げてくれました。また、コロナ禍により実施できていなかった学生による模擬店・野点が復活し、趣向を凝らしたフォトスポットの作成や写真展示など様々なイベントを企画しました。さらに、新たな試みとしてフィナーレにスカイランタン®の打ち上げを行い、キャンパスの空には幻想的な光景が広がりました。

来場者は700人を超え、在学生・教職員など大学関係者に加え、同日開催のミニオープンキャンパスに参加された高校生や、近隣の方にも多くお越しいただき盛況に幕を閉じました。



京丹波町と包括的連携に関する協定を締結しました

令和7年2月12日(水) 明治国際医療大学と京丹波町は、包括的連携のもと、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に貢献することを目的に包括的連携に関する協定を締結しました。

締結式では、本学の勝見学長、京丹波町の畠中町長が挨拶され、協定書へ署名を行いました。

本学と京丹波町は、これまでから、京丹波町で毎年開催される『京都丹波ロードレース大会』に学生の臨床実習などで出場者のスポーツケアや救護活動で参加し、交流を深めてきました。今後は本学の有する東洋医学を始めとする専門的な知見を活かし、相互に連携・協力し、京都丹波地域における地域課題の解決に取り組んで参りたいと思います。

また、今後農学部を設置に向けて、京丹波町の基幹産業である「農業」に関しても、大学の研究フィールドとして連携を図りながら、相互のブランド力を高めていきたいと考えています。

その他包括的連携協定

- 北海道文教大学および一般社団法人日本養生普及協会
- ファイテン株式会社
- 株式会社Fujitaka



卒業おめでとう!

これからの人生、皆さんらしく前を向いて進んでください。心からエールを!

都ホテル京都八条にて、各学科毎に開催した卒業記念パーティーを開催。お世話になった先生方への感謝の気持ちを込めて花束贈呈を行い、先生方からは卒業生に向けて応援のメッセージを贈られました。卒業生は夢に向かった仲間たちとの笑いと涙にあふれ、名残り惜しい最後の時間を過ごしました。

